

3年保存

No.

作成日 年 月 日

作成者

## アスベスト有無に関する事前調査記録

石綿障害予防規則第3条及び大気汚染防止法第18条の15に基づき建築物等の石綿事前調査を実施しました。

解体等工事の元請者の氏名 又は 名称、住所 及び 連絡先 並びに 法人にあつては、その代表者の氏名	〒	
	住所	
	法人名	
	肩書・氏名	
	連絡先 ( )	
解体等工事の名称		
解体等工事の場所	〒	
工事の種類	<input type="checkbox"/> 解体工事 / <input type="checkbox"/> 改修、改造工事	
解体等工事の概要 ※記入例 ○階建ビル(工作物)解体工事、 電気設備工事、内装工事、リフォーム工事		
解体等工事の発注者の氏名 又は 名称 及び 住所 並びに 法人にあつては、 その代表者の氏名	〒	
	住所	
	法人名	
	肩書・氏名	
	連絡先 ( )	
調査対象建築物等の着工年月日	年 月 日 / 不明	
建築物等の概要	建築物	<input type="checkbox"/> 耐火 <input type="checkbox"/> 準耐火 <input type="checkbox"/> その他
		<input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> RC造 <input type="checkbox"/> S造 <input type="checkbox"/> その他
		地上 階建 / 地下 階建
		延べ床面積 m <sup>2</sup>
		【用途】
		<input type="checkbox"/> 事務所 <input type="checkbox"/> 工場 <input type="checkbox"/> 倉庫 <input type="checkbox"/> 娯楽施設 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 病院
		<input type="checkbox"/> 公共施設 <input type="checkbox"/> 店舗 <input type="checkbox"/> 特殊建築物 ( )
		<input type="checkbox"/> 運輸関連施設 <input type="checkbox"/> 戸建て住宅 <input type="checkbox"/> 共同住宅
	工作物	<input type="checkbox"/> 反応炉 <input type="checkbox"/> 加熱炉 <input type="checkbox"/> ボイラー及び圧力容器 <input type="checkbox"/> 配管設備 <input type="checkbox"/> 焼却設備
		<input type="checkbox"/> 煙突 <input type="checkbox"/> 貯蔵設備 <input type="checkbox"/> 発電設備 <input type="checkbox"/> 変電設備 <input type="checkbox"/> 配電設備 <input type="checkbox"/> 送電設備
		<input type="checkbox"/> トンネル天井板 <input type="checkbox"/> プラットホーム <input type="checkbox"/> 遮音壁 <input type="checkbox"/> 軽量盛土保護パネル
		<input type="checkbox"/> 鉄道の駅地下式構造部分の壁及び天井板 <input type="checkbox"/> 船舶
		<input type="checkbox"/> その他 ( )
事前調査を行った箇所	<input type="checkbox"/> 工事対象建築物のすべて	
	<input type="checkbox"/> 改造、改修、補修等を行う部分 ( )	



●建築物等の着工年月日から石綿の使用がないことが明らかになった場合は、以下は記載不要。

現地調査記録	<input type="checkbox"/> すべての建築材料	
	<input type="checkbox"/> 吹付け材 <input type="checkbox"/> 保温材 <input type="checkbox"/> 断熱材 <input type="checkbox"/> 耐火被覆材 <input type="checkbox"/> 成形板	
	<input type="checkbox"/> 仕上塗材 <input type="checkbox"/> その他( )	
分析調査記録	添付文書一覧	
	<input type="checkbox"/> 写真 ※必須 <input type="checkbox"/> 調査票 ※必須 <input type="checkbox"/> 平面図 ※必須	
	<input type="checkbox"/> その他( )	
分析調査記録	<input type="checkbox"/> 別紙 のとおり / <input type="checkbox"/> 未実施	
※3 分析による調査を行った者	氏名 及び 所属する機関 又は 法人の名称	
	講習実施機関の名称	
分析調査の方法	<input type="checkbox"/> 定性分析 分析方法( )	
	<input type="checkbox"/> 定量分析 分析方法( )	
分析調査を行った箇所		
届出対象建材の有無 (みなし作業は、有に○をすること)	吹付け材 ※パーライト、パーミキュライト吹付け材を含む	有 ・ 無
	保温材、断熱材、耐火被覆材 ※屋根用折板断熱材、ケイ酸カルシウム板2種を含む	有 ・ 無
届出対象外建材の有無 (みなし作業は、有に○をすること)	仕上塗材	有 ・ 無
	ケイ酸カルシウム板1種	有 ・ 無
	成形板等	有 ・ 無
	その他の建材	有 ・ 無
調査ができなかった箇所 (再調査を行う時期)		

※3 分析調査を行った者の資格を証明する書類を添付すること。

※4 事前調査記録は、工事期間中は工事現場に保管し、工事完了後は3年間事務所等に保管すること。

(大気汚染防止法では、元請業者及び自主施工者に、石綿障害予防規則ではすべての事業者記録の保管義務があります。)





## 調査票記載方法について

### 1.上段の対象物件

#### (1)【対象物件】

- ①工事の名称:契約書に記載された工事の名称を記入する。
- ②建物等の名称:発注書通りの建物名を使う、複数の建物が存在する場合は補助番号などで補
- ③所在地:竣工当時の所在地と現在の所在地を記載するように努める。
- ④対象建築物等の着工年月日:建築物等の建築工事着手日を記入する。  
(法改正などとの照らし合わせに必要)改修年もここに記入する。
- ⑤建築構造:木造S造RC造その他にレ点を入れる。  
複合する場合は存在する構造に全てレ点を入れる。
- ⑥建物用途:事務所工場/倉庫娯楽施設学校など複数選択可である。
- ⑦階数:平家か複数階か地階があるのかなど
- ⑧延床面積:図面に記されている様に記す。小数点2桁など

#### (2)【調査の種類】

- ①調査期間 書面調査 現地での目視調査
- ②実施者:所属と氏名を書面調査と現地での目視調査それぞれに書く。

#### (3)【各室の調査結果】左から

- ①通し番号(調査部屋番号平面図の右サイドの部屋リスト表にて管理)
- ②階数
- ③部屋名
- ④部位(床、幅木、腰壁、壁、天井、ふところ) 必要に応じて下がり壁、袖壁、下がり天井、ふところ内既存の天井など追加になることがある。

#### (4)【書面調査】

- ①材料名 竣工図に記載されている用語を確認して記載する。
- ②使用面積 建築材料の使用されている面積を可能な限り記載する。
- ②商品名 竣工図に記載されている用語を確認して記載する。
- ③メーカー名 竣工図に記載されている用語を確認して記載する。
- ④石綿飛散の可能性 高濃度及び劣化状況が最悪の場合などに使用
- ⑤石綿の種類 想定並び限定が可能な場合に使用
- ⑥判断根拠 想定し現地での目視調査にて確認するが書面での判断が必要な場合使用
- ⑦添付資料 想定し現地での目視調査にて確認するが書面での判断が必要な場合使用

#### (5)【現地での目視調査】

- ①整合性の確認 書面と現地が整合する場合は○、整合しない場合は×で明示する。
- ②材料名 整合する場合もしない場合も記録する。
- ③特記事項 整合する場合は書面調査添付書類を活用、整合しない場合は製品の確認、建材種類、施工年代・製品製造年代の確認、裏面の情報の確認及び記録、分析等の通し番号と同一範囲とする建材の番号などの記載をする。
- ④写真番号 整合性の確認状況写真と試料採取等の状況写真の番号など
- ⑤採取試料番号 試料採取番号を記載
- ⑥採取位置 試料採取(サンプリング)位置図との連携を記載

#### (6)【調査結果】

- ①判断根拠 分類を記号で記入する。
  - a.「国土交通省・経済産業省 石綿(アスベスト)含有建材データベース」
  - b.メーカーの証明書、ホームページ情報等
  - c.分析による
  - d.公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず
  - e.その他(具体的に記載)
- ②添付試料 左記判断の根拠を証明するのに必要な資料を記録する。
- ③石綿の有無 “あり”か“なし”かの二択を記す。(みなしは、“あり”とすること)
- ④石綿の種類 クリソタイル=クリ、アモサイト=アモ、クロシドライト=クロ、アンソフィライト=アン、トレモライト=トレ、アクチノライト=アク、不明=不明
- ⑤材料の種類 レベル1、レベル2、仕上げ塗材=仕上、ケイ酸カルシウム板1種=ケイ1、成形板=板、その他=他、無石綿=無

※2枚目以降は、【対象物件】【調査の種類】を省いた書式を使用する。